

日本輸出陶磁器の動向(三)

杉 山 精 一

九、濠洲部

濠洲

濠洲は七百七十萬軒、人口六百四十三萬人で原始生産品が輸出の九割を占めてをり生産品輸出價額が貿易の運命を支配してゐる、戦前(一九一三)に貿易總額一億五千萬英磅が戦後増加し、一九二五—二六年に三億六百萬英磅となつて全盛を示し一九三一—三二年に一億千八百萬英磅に轉落した、日濠貿易を見るに

	一九三二年	一九三一年	一九三〇年	一九二九年
濠洲へ輸出	九、六六六	五、六二一	二五、四六六	五、八八五
濠洲より輸入	一四、九四四	三八、三九六	四六、三〇八	三三、七七一
差引	五、二七八	三二、七七五	二〇、八四二	二七、八八六

毎年多額の入超の片貿易で羊毛・食料品・小麥

等を輸入するが濠洲政府は事毎に關稅引上英國品特惠率を設定し、その開きを大にして英國品との競争力減殺に努力してゐる。大戰前の濠洲に於ける陶磁器の需要は英國品が $\frac{2}{3}$ を占め次いで獨逸品・致須品が $\frac{1}{3}$ で日本品は僅に二%であつたが、大戰により獨逸品杜絶し、英國品の供給が減少したため、日本品の進出旺盛となり一九一八年に二十七萬圓となつて全額の五十三%に當り第一位を獲得した。然るに戦後各國とも市場開拓に奔走し商品に流入し競争は激甚となつたが財界の深刻なる經濟不況に需要益々委縮し、一九三一—三二年の輸入は一九二五—二六年の半分以下となる慘で碗皿・据物等の商

品は致須品・獨逸品を相手にして猛烈なる競争を續けたが、生産販賣・統制・實質的に自由競争能力具備のため勝を得、上等品にては英國品に稍々意匠・圖案劣るとも格安の値段にて遂に相手をして屈服せしめ、一九三一—三二年に本邦品は先年の總輸入額の一、八割より四割に進みその勢計る可らず一方英國品は六割九分より五割二分へと轉落し漸減の兆あり、英國陶業者は本邦品驅逐策として關稅を改正し更に一九三三

稅番	品目	單位	從價	日本品 課稅率	英國 特惠率
二三七A	チャイナウェア ペーリアンウェア ポーセラインウェア	五	五	割	二割五分
〃 B	電氣用磁器 (三萬二千ポルト以上 輸通用絶緣體)	〃	六	割	三割五分
二四一	陶土製品	〃	五	割	二割五分
〃 B	アーセンウェア ブラウンウェア ストンウェア	〃	六	割	三割五分
〃 C	衛生用化粧用陶器 (一) 課稅額二十志超エザ ルモノ (二) 課稅額二十志超エ ルモノ	〃	五	割	二割五分

日本輸出陶磁器の動向

年九月一日より國產名記を實施せり、關稅改正が如何に英國品のみを優遇せるかは前表を見て明な事實である。

外にプライミナ稅設定之が英品より五分高い、このものを加へたものが實施せる關稅である。

十、比 律 賓 部

比 律 賓

比律賓は大小七千有余の島嶼からなつて面積二十九萬六千方呎人口約千三百萬人を含む農業國で輸出の九〇%は農產物で砂糖・ゴム・麻・椰子油・煙草等で外國より綿布・機械其他加工品を輸入する。一八九八年米國領土となつてより貿易は次第に發展し大戰後(一九二〇)に六億ペソで戰前(一九一三)の約三倍増加したが經濟的不況で萎縮したが米國が第一の顧客で一九三二年には米國は總額の六割四分、次いで英國の二分、日本の五分の割である。

日本より陶磁器の輸入は

(一九二六年)(一九二七年)(一九二八年)(一九二九年)(一九三〇年)
 千ペソ 千ペソ 千ペソ 千ペソ 千ペソ
 一、四四二 一、五七二 一、四七二 一、三三二 九五五
 一九三三年は前年に比し三六〇ペソ輸入増加を示したが米國は産業復興法のため無税で輸入するに反し、日本品は左記の如き税率を設定した。

現行率	本邦食器類	着色物	從價	二・五割
		鍍金物	〃	四・〇
	衛生品	〃	〃	一・〇

十一、佛印部

佛領印度支那

印度・支那の中間の半島の頭部に位し歐洲人數萬を除けば生活程度の低い土着人である。貿易は一八八四年佛國の保護國となつてから發展し、戦前(一九二二)に五億法、戦後(一九二六)には六十六億法となり約十三倍に躍進し、一九二八年に五十四億法と次第に減少し一九三一年に十九億法に轉落し、戦前の三倍に過ぎない。對外貿易は戦前に佛國は總額の三・四割、香港が

三割で日本は僅かに九分に過ぎなかつたが戦後(一九二六)に佛國は三・二割、香港は一・六割、日本は八分となり、一九三二年に日本は減少し四分に漸減を示した。

日本とは毎年佛印側は出超を示し米・石炭・ラック・ゴムを輸出し、絹織物・洋灰・陶磁器・チューブ類・木製品等を輸入してゐる、陶磁器の輸入は

(一九二九年)	(一九三〇年)	(一九三一年)	(一九三二年)	(一九三三年)
二八千法	六九千法	二三千法	三四千法	六四千法

一九三三年六十一萬四千法に達しその内譯は

陶器	白	色	五二千法	三七六百法
彩	色	四二	八三	
磁器	白	色	二五	二一六
彩	色	四九五	一、六九五	

前年に比し價格は二・八倍數量に於て七倍の激増となり、佛印政府は日本品の進出に脅威を感じ、原産國各標記を要求し、一九三四年三月防止策の關稅改正を斷行せり。

十二、馬 來 部

英 領 馬 來

英領馬來は海峽殖民及馬來半島中英國勢下にある聯邦及非聯邦を含んだ總稱で面積十三萬六千方糎、人口約四百六十萬人の馬來人が住んでゐる。對日貿易は主として、シンガポール、ピナにて行はれ、大部分は中繼貿易で總て商品の幾割かがスマトラ・瓜哇・ボルネオ等の隣接地へ再輸入され、大戰前(一九一三)には千三百二十二萬圓が戰後(一九二九)には六千九百五十六萬圓で絶頂を極め一九三一年に五千八十八萬圓、一九三三年には八千四百九十萬圓である。

日本陶磁器の需要者は馬來人で供給狀況は

日本品(A)	輸入全體(B)	A/B
一九一四年 一七五、二四五弗	一、三〇、五二弗	一四%
一九一五 三九、元〇	一、三五、四八	元
一九一九 一〇、〇一〇、四一〇	二、五九、四五	四三
一九二〇 六三、三四〇	三、四六、五五	元
一九二一 三七、五九	一、六六、四六	三
一九二三 八六、七三	二、四〇、五三	三

日本輸出陶磁器の動向

一九二七	七〇、五〇	二、三四、五七	三
一九三〇	三九、九八	三、四一、〇三	五二
一九三二	三六、五五	六六、七五	三
一九三三	五五、六五	一〇四、八六	五

元來支那品多く日本品は僅少なりしが戰後大飛躍をなし、一九三四年には總輸入の五割四歩に當る大躍進をなし、首位にあつた支那をも凌ぎ第一位を獲得す。

主要なる競争國の供給狀況は

	一九三一年	一九三二年	一九三三年
日 本	五七、五五弗	三、四、四七弗	一九七、〇四弗
支 那	一六、五二	一六、七三	二八、三六
英 國	七、八元	四七、五三	八三、四六

一九三二年に日本は戰前の三倍、前年より二・七倍の増加を示し日本品は馬來人相手で日常使用する格安の食器類・コーヒ茶碗・野菜鉢・土瓶・肉皿・灰皿・花差・電氣用碍子等で硬質スープレ皿が最も多く全體の八割に當り一般に無地青筋入九吋のものを好む、支那品は支那人相手とし茶碗・井・植木鉢で多種多様、英國品は歐米人向

で花模様スープ皿・肉皿・デーナセット、獨逸品は白人及一部の土人向で硬質皿・ライスボール・コーヒー花碗を供給す。

十三、滿洲・支那部

(イ) 滿 洲 國

貿 易 滿洲は人口三千萬人で我國の二倍の大きさの土地であつて、一九三一年滿洲國獨立までは支那の揚子江地方に次ぐ重要な市場であつた。南滿洲が主なる需要地で北滿洲は全體の一割にも當らない。貿易狀況は左の如く

一九三一年 一九三二年 一九三三年 一九三四年 一九三五年
 三三、九六千兩 六六、六〇千兩 七四、二七千兩 六三、三八千兩 五七、九六千兩
 南滿三港と北滿諸港及朝鮮經由で行はれ、歐洲戰後(一九二九)には七億四千五百萬海關となり、戰前(一九一三)の三倍三分の激増なりしも一九三一年滿洲事變北滿洲の水害等により減少し一九三三年には五億八千七百九十六萬圓となり、貿易は日本が常に第一位で二億二千萬兩で約四割を占め支那の一億四千萬兩で二割四分の第二位。次いで英・米の順位になる。

需給狀況

滿洲は陶磁器の良質原料は豊富にあれど工業極めて不活潑で發達しなかつた、昔時合計大小十一の工場があつて日用品の陶磁器を始とし普通煉瓦・土管を製造してゐる、就中張氏が投資せし肇新窯業公司是昭和三年に新設され、東北政府の擁護と關稅改正により我國の當業者を壓迫したが滿洲國獨立と共に一頓挫を來せり。

現在陶磁器工業公司是六ヶ所で飲食器を主として製造し新設公司三ヶ所都合九ヶ所である。

滿洲の陶磁器の需要は昭和元年には百七十三萬圓、同二年には百九十三萬圓、同三年には二百二十萬圓、同四年には二百二十四萬圓となり昭和五年は財界の不況と國內生産能力増加のため輸入減少を示した。

	國內生産高 千圓	輸入高 千圓	消費高 千圓
昭和五年	二六二	一、三三一	一、五六一
同 六年	一八六	三三一	五一八
同 八年	二二二	一、二一七	一、四三九

最近二ヶ年間に於ける滿洲國へ輸入された陶

磁器の各國別輸入關稅統計表（關東州消費を防ぐ）は左の如し

年三三九一
（年八和昭 年二同大）

關稅地	日本内地	支那	朝鮮	鮮英	國關	關東州	獨逸	英	國	其	他	合
大連	四、二〇〇	五、九三三				五、四七〇	一、二七〇	一、〇五五		三二	五九、三七	五九、三七
安東	七、五七	七、九〇	三、四八								九、八八	九、八八
龍井村	七、五九		三、八七								二〇、四六	二〇、四六
圖們	二、九四		二、四六		三、六四						一四、九〇	一四、九〇
營口	四										三、六八	三、六八
山海關	一八、四六	六、二五八									二、三三	二、三三
承德	二七〇	一三、七四				五、四七	一、二七	一、〇五			一三、六四	一三、六四
合計	五五、〇〇〇	二〇三、七五	五、二七四	二、六四	五、四七	一、二七	一、〇五	五二	五二	五二	八八、四一〇	八八、四一〇

年四三九一
（年九和昭 年元德康）

關稅地	日本内地	支那	朝鮮	鮮英	國關	關東州	獨逸	英	國	其	他	合
大連	八、四、五七	三、九〇六				八、〇九	一、五二	三			三七	九八、八三
安東	八、六二	一四、〇三	一七、一九								九、四三	九、四三
龍井村	二七、九五		七、五五								三、五二	三、五二
圖們	五、九三	一九四	二、三三								七、五五	七、五五
營口	六、二四三										六、二四	六、二四
山海關	四、三七	六、二五									一、五二	一、五二
承德		二八、四九				六、〇九	一、五二	三			二八、四九	二八、四九
合計	一、〇四、六三	三、七、五五	五、九四	五、八	六、〇九	一、五二	三	三七	三七	三七	一、五八七、五五	一、五八七、五五

日本輸出陶磁器の動向

三九五

七三

日本品は總輸入額の六割七分を占め大連港よりその八割を、日本海を経て北朝鮮より吉會鐵道にて進出するもの八分又朝鮮經由で入るもの八分、又再形式に依り朝鮮より輸入されるもの三萬六千圓に上り特に注意されてゐる。日本品は未だ同國人の慣習を理解しない點があつて尙此後發展の餘地は十分ある。昔日輸入を一手に請負した支那は同國人向の下級の陶磁器を輸入し産額は日本に次ぐ第二位で山海關を経て陸路進出が五割を占める、市場は日本・支那の二國にて占有され英・獨は競争外である。

(ロ) 支那

貿易 支那は廣袤九百九十一萬七千方料人口四億四千萬人を有する農業國で

一九三三年 一九三四年 一九三五年 一九三六年
七〇百萬弗 一、四四〇百萬弗 一、五五〇百萬弗 一、六〇〇百萬弗

世界貿易順位は十二位より十三位の間であつて、日支貿易は

一九三三年 一九三四年 一九三五年 一九三六年
一九、三三 五〇、九〇八 六〇、九三三 一六、〇〇〇

對米・對英と共に重要な位置にあつたが一九三一年上海事變に對し激烈なる排日運動ありその結果低下したが戰前に比べて日本への輸出は四倍で支那總輸出の1/3といふ比肉な現象を呈し、日本は支那の良き顧客である。

需給狀況 支那の陶磁器工業は未だ幼稚にて優良品の生産が出来ず、裝飾品及日用品は他國より供給を受け産地は唐山・博山・磁縣・景德鎮等で

支那より輸出 外國より輸入

一九二五 四、〇五四兩 一、七一六、六一六兩(牛莊の輸入を含む)
一九二六 四、一二六 二、一七九、六〇三
一九二七 四、〇七六 二、一六三、一〇八

常に多額の入超である。地理的關係上、天津・上海・香港の三大別にすることが出来る。

天津地方は天津港が第一の輸入地で約七割を占め、次は青島港である。北支那・蒙古庫倫・新

疆省・甘肅省・青海省方面の廣大なる地區の玄關口であつて一九二九年には日本二九八、九七七兩、英國二、三三二兩、獨逸二、三〇六兩、佛國七四九兩、米國六九三兩の割合で日本は約九割を占めてゐる。

上海地方は上海が第一の輸入港で揚子江沿岸即ち支那の中部全體を包括し、一九二八年に日本五〇八、一一七兩、英國九〇、〇二七兩、獨國三八、四二〇、白耳義二九二兩、米國一〇、八〇八兩で日本は八割を確保してゐる。

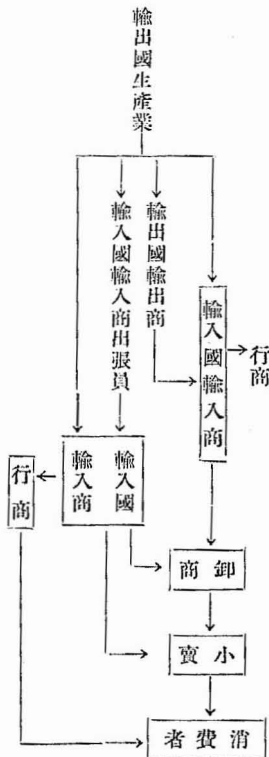
最近支那輸入陶磁器の各國競争狀況は

日本 一九三三年 一九三二年
三五四、九九九兩金 四二九、六〇五兩金

英國	八九、九一一兩金	九八、六三五兩金
獨逸	四〇、七一一	二三、九七一
其他	一八、三六七	二七、三五八
合計	五〇三、九九四	五七九、五六九

日本品は七割以上で斷然優勢な地位にあり英國は一割一分で第二位、次が獨逸の順位である支那は近時文化發達に伴ひ衛生思想上益々陶磁器の需要を増加する趨勢にあり、歐洲大戰のため英・獨品が輸入杜絶のため、日本品が猛烈な進出をなし、戦前は支那總輸入の二割八分であつたが、戦後（一九二九）には七割二分まで躍進し其後常に七割以上を維持してゐる。

取引狀況 天津地方の取引左圖の如し



上海地方は

外國生産業
輸出商→輸入商→支那商→地方小賣商→消費者

十四、近東埃及部

埃及

埃及は中産階級少く大地主及零細の勞働者多數で約八割を占め、日本との貿易は古くから行はれ、日本陶磁器輸入は大戰中驚異的進出をなし、

一九二〇年	九九、五五四	(全體の二三、七%)	埃及磅
一九二二	二四、二九九	(〃 一三、一%)	
一九二四	一二、五一一	(〃 六、三%)	
一九二六	七、四〇八	(〃 五、〇%)	
一九二七	一二、九九一	(〃 一一、〇%)	

磁器食器類は昔は獨逸品が第一で致須・白耳義品は之に次ぎ日本との競争國は獨逸・致須で

あつて陶器及衛生陶器は英・白・獨の順位で日本は問題で無い。

取引が古來ユダヤ人の獨舞臺で商品も常に獨逸品を以て充滿してゐたが大戰後地盤を失ひ、日本品が特に進出し、肉皿・スー・皿・デーナセツト等安價なものが輸入され近時日本品萬能の有様である。各國別の競争狀態は

日本	一九三三年	一九三二年
英國	三〇、一八九磅	三四、〇〇四磅
致須	二、〇七九	二、三八〇
獨逸	一二、四五六	八、七一四
露	一六、八四九	一五、六八五
合計	一、九一八	九、〇四五
	七四、九二八	八〇、八三五

一九三三年には日本は四割、獨逸は二、二割、致は一、七割の順位である。(未完)